

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年 9月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4073000608		
法人名	医療法人 牧和会		
事業所名	ピアツツア 桜台		
所在地 (電話番号)	福岡県筑紫野市大字常松456番地の2 (電話) 092-919-2566		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成19年8月29日	評価確定日	平成19年9月20日

【情報提供票より】(19年7月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 9人, 非常勤	人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(180,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	700 円	おやつ	昼食代に込 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	1 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81 歳	最低	67 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 牧和会 牧病院 / 医療法人 徳州会 福岡徳州会病院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体は医療法人であり精神 認知症を専門とした病院である。病院での大人数での対応ではなく、少人数の中で一人ひとりが個人として理解され、専門のスタッフから個別ケアが受けられ、その人らしく生活できるように平成15年に建てられたホームである。ホームは和気あいあいとした家庭的な雰囲気、利用者はそれぞれに会話をしたり、歌を唄ったり、お互いにいたわりをしながら過ごしている。共有の場は各部屋の中心に大きく位置し、そこにはテレビやソファが配置されたり、季節の花が生けられたり、飾り物が置かれたり、生活感を常に感じる事が出来、利用者はその中でゆっくりとした時間を過ごしている。定期的に訪問されている家族の協力を得ながら、職員も安心して過ごして頂けるよう環境づくりに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の改善課題は 成年後見制度の活用およびその家族・入居者への説明の徹底、人権教育のスタッフへの徹底、市町村との関わり、地域の人々との交流促進等が挙げられた。に関しては教育等行なわれていたが、スタッフの理解度が低かった。に関しては研修の実施や資料の整備が行なわれておりスタッフには徹底している。に関しては市町村担当者との交流は充分とは言える状況ではなかった。に関してはいきいきサロンに赴いたり、近隣の保育園を訪ねたり、地域との交流を深めている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価はまず職員代表の2名と管理者で検討し、その後、全職員で話し合いを行ない、評価の意義を共有するとともに改善に向けての検討が行われていた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>参加者は利用者と家族、民生委員、市の職員、職員が参加し、18年の11月と19年の5月に開催している。内容はこれまでの企画・活動と苦情処理について報告などが行なわれている。会議で出された意見をもとに今後の支援に活かすようにしている。ただ、開催回数が年2回と少ない。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>ご家族とは2週間から1ヶ月の間には必ず面会に来て頂くという約束をしている。面会時には必ず声かけを行い、本人の状態や暮らしぶりを報告するようしており、要望などが気軽にできるような雰囲気づくりに関係づくりに努力している。訪問された時は伝える事の漏れが無い様にパソコンで管理し、スタッフ全員が共有している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域的に住宅が少なく地域との連携が頻繁に取れていないのが現状であるが、地域のいきいきサロンが近隣3地区で半年に1回くらいの割合で開催されており積極的に参加している。そこで民生委員さんや地域の老人の方々との交流を図っている。また、夏祭りなどを開催し地域の人々に案内し参加してもらっている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	「ご家族とともに、その人の持っている力を大事にしたケアを行ないます。安心して落ち着いて生活できる環境作りを行ないます」という理念のもとに地域の中での関係づくりを常に頭におき、地域密着型サービスとしての役割に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼の時に、職員全員で唱和しており月に1回理念を基に各自が業務を振り返り確認を行なうなどし、理念の実践、共有に取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のいきいきサロンに半年に1回出かけた。保育園を訪問したり地域との交流に努めている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はまず職員代表の2名と管理者で検討し、その後、全職員で話し合いを行い、評価の意義を共有するとともに改善に向けての検討を行なっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在まで2度開催されているが、頻度としては少ない。会議の内容はホームの企画や活動報告、苦情処理についての説明が行なわれ、意見を伺っている。		運営推進会議は外部の人の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合うことにより地域の理解と支援を得る為の貴重な機会となる。開催頻度が半年に1度は少ないのでおおむね2ヶ月に1度開催することが望まれる。

ピアツツア桜台 グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの方との交流を実施し、よりよいサービスの向上を図っているが、市町村の担当者との交流は少ない。		現場や利用者の課題解決の為に、市町村の理解と協力が必要となる。何か問題が起こったときに事業者のみで抱え込まず、市町村担当者とともに課題解決することが、大切となる。普段より市町村を訪ねホームの現状報告をしたり相談を持ち込んだりし常日頃より関係作りを行なうことが求められる。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族会の時に、成年後見制度を実際に利用された方より講習を受けたり職員全員にも説明が出来る様に研修を行ったりしているが、職員の理解度は低い。		管理者および職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の理解に努め、これらを必要としている人が活用する為の話し合いや関係機関への橋渡し等行なうことが必要となる。職員への定期的な研修およびその理解度の確認を行なうことが望まれる。
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には契約時に最低でも1ヶ月に1度の面会をして頂く事を約束している。面会時にはご家族に必ず声をかけ、伝達事項を伝えている。どうしても来られなかった家族には電話にて連絡を取り報告を行なっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付にふれあい箱(意見箱)を設置をし、定期的に点検をしている。意見等があれば職員全員で会議を開催し話し合いをしている。また、家族等から不満や苦情などある場合は、話しやすい場所に移動して管理者が直接受け付けるようにしている。外部への相談窓口については、玄関の目に付く場所にポスターの掲示をしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人には病院、老健施設があるがホームの職員の異動は極力しないようにしている。どうしても異動が必要な場合は、引継期間を1~2ヶ月と入居者にダメージが無いよう配慮している。		

ピアツツア桜台 グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>まず母体法人である病院で採用し、病院や老健で十分に経験をもらうようにしている。ホームへは介護力のついた意欲のある人が異動となり、十分に能力が発揮できるようにしている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関する研修には管理者・職員が参加するようにし、参加できなかった職員に対しては伝達研修をするようにしている。また、研修の資料はファイリングし、いつでも見られるようにしている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月第2水曜日に行われる法人内での教育委員会の研修に代表1人が必ず参加している。研修内容は、伝達研修を実施しているが、ホームでのその人の段階に応じた研修計画が立てられていない。</p>		<p>事業所においては、サービスの質の向上の為に、職員各自の立場、経験や習熟度に応じて段階的に身につけられるような研修体制が必要となる。事業所内・外を問わず個人に応じた研修計画を立て、職員が広く学ぶ場を提供することが望まれる。</p>
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>特に、近隣のホームとの交流は行なわれていない。近くに小規模多機能型施設が出来る予定なので交流を深めたいと考えている。</p>		<p>地域の同業者とのネットワークづくり、勉強会、相互評価などを通じ事業所の質をお互いに高めることができる。また、職員同士の交流ができることにより仕事の悩みの解消、緊急時の連携をとることができ地域全体のサービスの向上をはかることができる。地域の同業事業者へ働きかけを行ない、勉強会や見学会などを開催し交流を深めてはどうか。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者にはまず、見学をもらい納得していただいた上で契約をしている。利用者には環境に馴染まれるまでスタッフが付き添うようにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている	くつろいで生活でき、気を遣わなくて良い様な環境を作っている。毎日が利用者から学ぶ事も多く、共に支えあえる関係作りに努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その日、着たいものを自分で選んでもらったり 日常の会話の中で一人ひとりの思いや希望・意向の把握をすようしている。把握が困難な方には担当スタッフが付き添い、表情などでその方の希望を読みとるよしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	受け持ちの職員が計画を立て、ミーティングで発表している。月1回カンファレンスを開催し、職員全員で検討し計画を立てるようしている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し期間の見落としが発生しない様に、一覧表を作成し管理している。申し送りで担当者が作成したプランを発表し、1人だけの考えで進まないように職員全員でも意見を出し合い介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて通院 往診など、必要な支援は柔軟に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の変化については本人・家族の了承のもと、柔軟な支援をしている。また、本人のかかりつけ医の受診については、ご家族と同伴するように情報の共有をるようにしている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合とターミナルケアについての説明を書面にて行なっている。該当事例が発生した場合は家族・職員・医師と十分な協議を行なった上で対応するようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は普段から誇りやプライバシーを考慮した優しい声かけや、傾聴・見守りを行なっている。また、個人の情報管理はパソコンにて行っており、パスワード管理され外部の人からは見れないようにしている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや体調に配慮し、本人がその日行ないたいことに極力添うように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆で育てた野菜をメニューの中に取り入れたり、食事の準備段階から利用者が積極的にキッチンに立ち、食事が終わると自ら食器を運び、洗うなど職員と共に楽しみながら雰囲気づくりをしている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調に配慮しながら入浴はいつでも出来るようにしている。比較的、昼食後に入浴を希望される方が多いので、合わせてスタッフも1人が付き添える様な体制をとっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食後のテーブル拭きを当番制にし各自担当してもらい、張り合いを持ってもらうようにしている。季節に応じ梅干作りや野菜作り等を行ない、楽しみごとを多く持てる様な取り組みをしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1ヶ月に1回～2回くらい、外食や花見の行事を取り入れ全員で出掛けている。また、個別に買い物や薬を取りに行くなどの外出の付き添いの支援を行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各部屋、自由に出入りが出来る様にドアはオープンになっている。玄関も格子は閉まっても鍵はかからず、外出をしたい利用者にはさりげなく声をかけ一緒に付いて行くなど、安全面にも配慮して自由な暮らしを支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て、法人全体と隣の老健との合同の災害訓練を年2回実施している。夜間での災害想定訓練も実施し、いざという時に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が食事メニューを考えており、おかず等はやわらかめの1口大にしており、消化が良い様に工夫をしている。摂取量も毎日チェックし記録しており、職員全員で情報を共有している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースが中央に位置し、そこにはテレビやソファが配置されたり、季節の花や飾り物が配置されたりし、生活感も十分に感じられる。また、広い窓の外には芝生が植えられたり、栽培している野菜が日よけの役目として活用するなど視覚的にも工夫をしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット洗面台が各部屋に設置されている他、使い慣れた筆筒等の家具が持ち込まれたり、家族の写真などが思い思いに飾られている。持ち込むものや家具の配置は本人・家族と話し合い、居心地よく使い易い様に工夫をしている。		